

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203089		
法人名	医療法人 和香会		
事業所名	グループホーム和らぎ遊び(和らぎユニット)		
所在地	岡山県倉敷市福田町古新田1051番地1		
自己評価作成日	平成22年2月2日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370203089&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成22年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム和らぎ遊びは平成15年6月に開設したが、開設当初から普通の暮らしということを大切にしてきました。それは認知症があっても、高齢者になっても地域の慣れ親しんだ環境で生活をするということです。そういった意味で、事業所の運営に関しては特別なことではなく、日常を大切にすることと考えてきました。地域にある理美容店、喫茶店、なじみの商店、スーパーなどを利用し、ホーム内では個々の利用者さまに応じた役割を持っていただく。またホームではなじみのある行事をし、時には併設のデイサービスの利用者さまと一緒に行事を楽しむ、そんな生活を送っていただきたいと思います。母体が医療機関ということもあり、法人全体で一人の利用者さまを支えることができるホームであると考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立して7年目ともなると利用者の重症化も進んでくる。一つのユニットは重症化した人が多く、半数位が車椅子での生活を余儀なくなっている。リクレーンングで各所がその人に合わせられる車椅子を家族に買ってもらっているようだ。食事介助も一時間余り要する人も多く、一人ずつ職員がついて支援している。一人の職員が両方のユニットを兼務し、こちらのユニットを重厚にしている。片方のユニットは比較的進行がゆっくりとしていて母体の病院にリハビリに通ったり、食事や片付けを手伝っている人もいる。若年性アルツハイマー病の男性も入所してケアのあり方を考えなければならぬ。一昨年から各々のユニットに管理者が就き、今年度はユニットを交替していた。二人の管理者のコンビも上手く働かせて、職員の気持ちや意見を聞きながら日々の楽しい流れを作っていくだろう。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに年度の目標、を立てスタッフのケアの統一を図るように努めている。今年度は チームワークを図る 利用者さまが元気に生活を送れるようにそれぞれの役割目標を持っていただく。 利用者さまの気持ちに寄り添い安心した生活を送っていただくという目標を掲げた。	法人の理念を基に2つのユニットで目標を掲げている。今年は利用者の事をより良く知り、利用者の思いに添ったケアをしようと職員みんなで頑張っている。このホームで生活してきた利用者が何を考えているかを確認してみることも必要だろう。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流は普通の生活が送れるように地域資源を使うことと考えている。買い物やなじみの理美容店を利用することが大切だと思いい実践している。	施設の餅つき大会にかかりつけ薬局の協力をいただいたり、夏祭りに近所の方々にも参加していただき地域との交流が少しずつできてきている。ホームで飼っている犬を見に小学生が立ち寄る事もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に特別な活動はないが、倉敷市内の看護学校の実習受け入れ、近隣の中学校からの職場体験の場として提供している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加者に助言をいただく中で行事を企画しました(餅つきなど)。また参加いただいている調剤薬局の薬剤師さんに薬についての研修会を開催していただいた。	推進会議で行事を企画したり、看取りの体験談を話していただき、家族が抱えている不安を家族同士で意見交換してもらって家族間の交流も図ることが出来て日々の介護にも活かしている。	運営推進会議へ市にも出席を促したり、推進会議で話し合った事を市にも議事録で配布しておいて欲しい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告や、指導相談などさせていただいていますが、積極的に連携を図っているとはいえないと思う。	市に対しては、指導相談や事故報告等必要時に連絡し指導も受けている。運営推進会議に出てもらって、市の担当者にもグループホームをもっと理解してもらい、認知症ケアについても積極的に話し合える関係づくりも必要だろう。	事務連絡だけでなく、ホームが頑張っている利用者ケアし、人間としてちゃんと生活が出来るよう支援しているグループホームの対応についてもっと市の担当者には知ってもらいたいと思う。(外部評価機関意見)
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から、玄関の施錠も含め身体拘束は絶対にしないという信念で運営している。今までの1例もない。内部研修にて身体拘束について周知するように努めている。	身体拘束は絶対にしないという考えを持って介助に当たっている。身体拘束は弱い者にとって絶対にしてはならない事であるが、自分の命が安全で健康であるという保障が何事にも増して重要であることも注目しておいてもらいたい。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度の虐待防止について研修会を開催した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、家族が後見人になっておられるケースは数例ありましたが、職員への知識の周知は今後の課題と思っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時前から必ず施設見学とサービスの内容、利用料などの説明をさせていただいている。実際の契約時には重ねて説明をさせていただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、気軽にご要望を頂けるように、面会時などに普段の様子をお伝えするなどして、信頼関係を気付くように努力している。	職員2人がチームを作り利用者や家族の思いを時間を掛けて聞き、本人や家族の思いをより深く知る事が出来るようになった。また、家族も度々訪問して気軽に手伝って下さるようになった。	利用者や家族の気持ちや希望等を知る為のコミュニケーションの取り方や、相手の一言や表情から気持ちを汲み取れる感受性も養っていかねばならないだろう。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務や行事に関してはボトムアップを基本として、スタッフミーティングを月に一回開催している。	職員の意見を自由に述べる事が出来、良い事は積極的に取り入れている。また、年1回個人の面接を行い、希望や相談に乗っている。2人の管理者がそれぞれの利点を尊重し合い、よく相談して運営している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職の評価だけではなくスタッフ同士の相互評価も年2回行っている(賞与時)。管理者についても同様にスタッフからの評価を受けるようになっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の内部研修に加え随時外部研修にスタッフを派遣している。特に認知症介護実践者研修には順次派遣している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流の機会として、日本認知症グループホーム協会に所属し、研修にスタッフを派遣している。他施設の方の見学も制限なく受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係の構築は人間関係の基本と考え、認知症があっても人と人のお付き合いには変わらないことを基本に関係作りをしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な相談をさせて頂いている。また、できればご家族が支援して下さることも様子を見ながら相談させて頂いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	気軽に相談していただけるように信頼関係を作るように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの役割は暮らしを支えること差のためにはスタッフも共に暮らす仲間であることを念頭に置いたケアに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を日常的に報告したり、広報誌の中で報告し、常に関心を持って頂けるように配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じてなじみの理美容店にお連れしたり、外出の機会を持ってもらうように努めている。	馴染みの地域や店に行ったりして、馴染みの関係が途切れないよう支援している。利用者がこのホームの中で馴染め、友達をつくって楽しく過ごせる事が一番必要なことだと思う。職員同士も同様である。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが仲介役になるのは基本だが、時にはお互いの成り行きを見守ることも必要だと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には定期的に見舞いも兼ねて訪問するようにしている。また家族からの相談にも対応するようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の訴えや生活の様子への把握に努め、会議を通じてスタッフ間で共有し、対応を検討している。	職員2人がチームを作り、一人の利用者について本人や家族から生活歴や興味のある事等じっくり聞こうと努力している。この中から、利用者自身の得意も発見できたり、新しい世界が見い出せると良い。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたっての当事業所の調査票にある生活歴の項目を重視している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	寄り添いの姿勢で支援することでご本人のことが見えてくると考え把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望を重視して介護計画を作成するようにしている。	本人の生活歴や興味ある事を重視して介護計画を立てている。日々、モニタリングを行い、介護計画の見直しの時に役立てている。計画を作る過程や介護を実際にしてカンファレンスもこのホームらしいものが見出されそう。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の記録をこまめに記録しスタッフで共有するようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相談をいただくご家族さまには、きちんと対応し出来る限りお応えできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活において地域資源を使うことが普通の生活であると考え、なじみのスーパーでの買い物や理美容店を利用するようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や従前からの主治医との連携を密にし、特に医療法人系のグループホームとして連携を重視しています。	ホームの提携医に月1回往診をお願いしている。本人の希望する主治医があれば園がかかりつけ医との連携を図っている。母体が医療機関であり、医療と介護の連帯を大切に考えているので利用者は安心である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ヘルパーステーションとの契約により週一回の訪問にて健康相談、報告を行っている。スタッフも適切に報告できるように努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供や入院後の連絡調整を密に行っている。入院された場合でも条件に応じて居室確保を保証いたします。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の当事業所の方針支援のないようについて説明を行っている。	終末期ケアについて、本人、家族、主治医、看護師、ホームと話し合っている。看取りは家族の参加、医療機関、スタッフの協力が必要なため、条件をしっかりと吟味した上で、ターミナルについては取り組んでいこうとしている。死に様よりも生きている事がより大切である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルを整備し、適切に医療機関へつなげることが出来るようにということを重視している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を実施し、避難経路、方法について周知するようにしている。	災害対応マニュアルを作成して年2回避難訓練を実施し、避難経路、方法について確認している。デイサービスセンターも同一敷地にあり、総合した訓練をしている。	運営推進会議の場を利用して緊急時の協力体制を近所に求めるようにして行ってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者さまの大切にしていることの把握に努めている。また、入浴や排泄の介助においてもさりげない支援に心がけている。	一人ひとりに合わせた声掛けが行われている。トイレに誘導する時も利用者の尊厳を守るよう心掛けている様子が窺えた。トイレの便座に座る時や風呂で脱衣する時の職員の心掛けにも細心の注意を払っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の支援は個人の入りたい時間回数など考慮して声かけしている。また毎日ではないが、食事の一部を選択できるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さま同士の協調性もあるが、起床や食事の時間など個々のペースに配慮している。また職員側からの提案で趣味や行事の参加を促している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の趣味に合わせた衣類の選択や髪型などに配慮した支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは参加できる利用者さまには協働をお願い参加されている。	9名中4名が介助が必要だが、それぞれのペースに合わせ、楽しく話しかけながら時々嚥下を促し、2時間近くかけて食事介助をしている。配膳など手伝いの出来る方にはどしどし手伝ってもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の把握と必要に応じて水分量を把握できるようにしている。また食事量が少ない方には必要に応じて高カロリーのプリンや飲み物を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは1日1回必ず実施し、必要に応じて毎食後支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレを備え、できる限りトイレに行かれるように支援している。しかしながら、一律にトイレ誘導を行うなど過剰な支援は適切ではないと考え個々のペースにあわせて支援している。	一人ひとりの排泄支援を介護計画に盛り込み、昼間は出来る限りトイレで排泄できるように支援している。声かけや誘導の必要な方にはプライバシーに配慮し声掛けを行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師訪問看護師の助言のもと、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の支援は個人の入りたい時間回数など考慮して声かけしている。	出来るだけ本人の希望に合わせて入浴できるように配慮している。入浴中は職員と1対1でじっくり話ができるよう時間を掛けて入浴介助し、一人ひとりが入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで過ごしたり自室で休んだり、ご本人の状況に合わせて声かけ支援している。またパブリックなスペースの和室でもくつろげるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の薬剤師よりアドバイスをいただいたり気軽に相談ができるように連携している。そのおかげでスタッフも薬に関する知識が理解できている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて、食事準備、洗い物、掃除、など役割を持って生活していただいている。また趣味は個別を基本に支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の支援はとても大切だと考えている。なじみの理美容店や買い物など個々のニーズに合わせて外出支援している。	散歩をかねて近くの店に食料品の買い足しに出掛けたり、散髪屋に同行する等、出来るだけ外出できるように配慮している。認知症の重症化や身体機能の低下が進んでくると、外出の難しい人が出てくる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて個々の利用者さまにお金を持っていていただくが、トラブル防止のために個々の買い物は事業所が立替るということにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自由に電話していただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の照明は間接照明、暖色系の光に統一している。廊下の各所に飾り棚を配置して、植物や利用者さまの作品やなじみのある遊び道具などを置いている。	廊下は太い梁がむき出しの天窗で、日の光が注ぎ込み明るくゆったり広い廊下には縁台が置かれ、路地を思わせる造りになっていてゆったり過ごせるよう配慮されている。一方では和風造りにこだわって落ち着きがある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で一人の時間を過ごしたり、掘りごたつのある和室、縁台などを配置して、自由に過ごせるように支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のものは全て持ち込みをお願いし、その人らしい部屋作りをご家族さまと一緒に考えてお願いするように努めている。	畳敷きの部屋、洋間と9室全部違う造りで、部屋も広く、各室にトイレが備え付けてあり、各自自分の使い慣れた家具を部屋に置き、居心地良い部屋づくりがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子、手すりの位置などは高齢者に使いやすい低めの者を用意し、無意識に使いやすい配慮をしている。またタンスやベッドの配置などご本人の動線に配慮して配置するようにしている。		